



体外受精を行う場合には、採卵手術によって卵子を採取するとともに夫の精子が必要になります。

採卵ほどの負担はありません。

ただ、不妊の原因は男女半々と言われる昨今です。男性不妊症の場合、重度であれば特別な精子回収方法が必要となり、やはり手術が必要になります。それら回収方法含め精子側のことを調べました。

この採精に関する質問がステージ4です。

4-1 採精はどこで行う？

不妊治療を行う治療施設（病院・医院・クリニック）には、採精室があります。これはメンズルームとも呼ばれ、ここが採精場所となります。大きな病院などでは、今もトイレで採精というケースもあるかもしれませんが、利便性や安心感などから自宅採精が多いようです。そこで、ここでは採精場所として、院内か自宅かの比率で質問しました。結果は自宅が約62%で院内が32%でした。

多くの施設で自宅採精を採用していることから、特に男性の通院負担が軽減されているといえます。しかし治療施設によって、検査は自宅採精or院内採精のどちらでもいいが、体外受精治療周期中の受精を目的とした採精は原則院内採精としているところもあります。治療施設によって、採精などの細部に渡った治療方針に違いがありますので、一度、尋ねてみるといいでしょう。

4-2 採精方法で実施しているもの

精子回収方法の基本は、男性が自分で行うマスターベーションです。それは院内でも、自宅でも同じでしょう。男性不妊症の場合であれば、医師の手技による前立腺マッサージほか、TESE（精巣内精子採取術）、MD-TESE（顕微鏡下精巣内精子採取術）、MESA（精巣上体内精子吸引採取法）、ReVSA（精管精子回収術）、PESA（経皮的精巣上体精子吸引術）、電気などがあります。その実施状況の質問では、回答139件中、TESE、MD-TESEの実施がそれぞれ59施設、45施設とあり、他の実施はかなり少ないという結果でした。

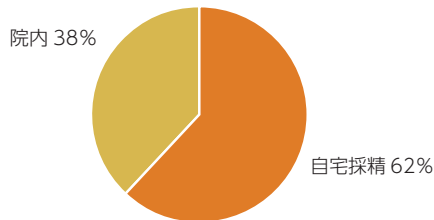
4-3 精子を回収する手術の対応について

手術を行う場合の対応については、回答122件中、院内が46件（38%）、連携先が71件（58%）、患者自身が探す（調べた施設）が21件（17%）でした。患者が探す場合は、泌尿器科の生殖医療専門医がいる、あるいは泌尿器科の医師のいる施設や不妊治療専門の泌尿器科施設、または不妊治療を行う施設で男性不妊外来がある施設が考えられます。

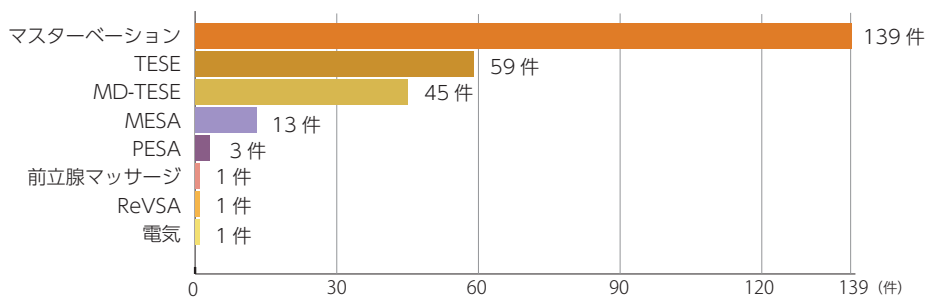
STAGE 04 採精について

4-1 採精はどこで行う？

●採精場所の割合



4-2 採精方法で実施しているのは (有効回答数 139 件)



TESE …… 陰囊の皮膚を切開し、中の精巣の被膜も切開して精巣組織の一部を採取する。顕微鏡を使って採取した組織から精子を探す。見つかった精子は、顕微授精にて体外受精を行う。特に閉塞性無精子症の男性に適応し、多くのケースで精子が見つかる。Simple TESE、Conventional TESEともいわれる。

MD-TESE …… 陰囊の皮膚を切開して精巣の被膜を大きく開き、顕微鏡で精巣内から白くて太い精細管を探し採取する。採取した組織から顕微鏡で精子を探す。見つかった精子は、顕微授精にて体外受精を行う。主に非閉塞性無精子症の男性に適応するが、この場合は見つかるケースは半数くらいではないかといわれている。Micro-TESEともいわれる。

4-3 精子を回収する手術の対応は (有効回答数 122 件)

